学力向上のための重点プラン【小学校】　新宿区立富久小学校

■　学校の共通目標　【ＨＰ公開用・様式１】

授業作り	重点	・デジタル教材や学びのツールを効果的に活用し、課題解決を進める。 ・主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、探究的な課題、協働的な学習に取り組む。
環境作り		・一人一人の考えが尊重され、学び合える学習環境作りを進め、各教科等で対話的な学びを実践する。

■　学年の取組について

学年	学習状況の分析 （各種調査から）	学校が取り組む目標 （日常の授業の様子から）	目標達成のための取組
1学年		・平仮名、片仮名の字形を整えて書くことや、拗音を正しく使って言葉を書くことができるようにする。 ・相手を意識して自分の考えを表現できるようにするとともに、相手の伝えたいことを落とさずに聞くことができるようにしていく。 ・算数では、数の合成・分解、20 までの数のたし算、ひき算が正しくできるようにする。	①プリントを活用し、文字の練習をする。 ②話し方、聞き方を例示し、話し合い活動が十分に行われるようにする。 ③デジタル教材や具体物を活用し、数の多面的な見方を育てる。 ④単位時間ごとのまとめや振り返り ⑤生活科の学習で、探究的な活動を繰り返し行う。
2学年		・文字(ひらがな、カタカナ、漢字)を正しく書くことができるようにする。 ・自分の考えを主語、述語、助詞の使い方、促音、撥音、濁音に気を付けて、正しく作文したり、表現したりできるようにする必要がある。 ・最後まで、集中して話を聞けるようにすることと、相手に伝わるように、順序立てて話ができるようにする。 ・繰り上がり、繰り下がりのある計算について、10 のまとまりを意識した指導を繰り返し、基礎的な力をつけられるようにする。	①日記、短作文を書く習慣作り ②授業の始めに計算、漢字を学習する時間の確保 ③話すこと・聞くことのルールの徹底 ④具体物の操作を通した問題解決学習の設定 ⑤考えを図や式、文章で表現する活動時間の確保 ⑥デジタルドリル、プリントの活用を通した計算力の向上
3学年	国語 ・書くことに記述式の課題を解く力を身に付ける必要がある。 ・文章理解に関して学力差が見られる。 算数 ・基礎的な数量に関する内容、測定に関する内容で学力差が見られる。 ・記述式の課題、応用的な課題において学力差が見られる。	・書くことに対する抵抗感を無くし、日常的に文を書く経験をもたせる。 ・本に親しみ、興味を持つことで文章を読み取る力を育成する。 ・基礎基本の定着を図る。四則計算の基礎を定着させる。 ・自分の考えをまとめ、解決への道筋を整理させる必要がある。	・書くことに対する抵抗感を無くすために、ミニ作文や学習感想など、日常的な書く機会の設定を行う。 ・読書マラソンを実施する。年間 100 冊を目標に設定する。 ・日常的に基礎計算を練習する機会を設定する。 ・図や数直線を用いて自分の考えを書く場面を設定する。各単元で既習学習を振り返り活用する場面を設定する。

4 学 年	・主語や述語に気をつけて文章を書くことができる。 ・基礎的な漢字の読み書きにおいて、課題が見られる。 ・数と計算領域において、前学年までの計算を正確に解答することに課題がある。 ・問題文の場面をとらえ、必要な情報を選んで解答することに課題がある。	・基礎的な漢字の読み書きを確実にする。 ・漢字を正しく使って文章を書けるようにする。 ・読書により、語彙を獲得できるようにする。 ・話の中心を意識して、考えながら話したり聞いたりすることができるようにする。 ・基礎的な計算力を高められるよう、四則計算の定着を図る。 ・問題の場面を実生活とつなぎ合わせてとらえ、適切に立式できるようにする。	①漢字小テスト ②読書環境の整備 ③朝の時間のスピーチの習慣化 ④週に１回の２文作文 ⑤デジタルドリルやプリントを活用した計算の習熟 ⑥算数的活動の充実
5 学 年	・構成を考えて文章を作ったり、文字数に合わせて文章を要約したりすることに慣れてきた。 ・語彙を豊富に用い、適切に漢字を用いて表現することに課題がある。 ・自分の経験や思いを意欲的に話すことができる。一方、話の中心を考えて聞いたり、話したりすることに課題がある。 ・自分の考えをもち、自信をもって交流することに課題がある。	・漢字を正しく使って文章を書けるようにする。 ・読書により、語彙を獲得できるようにする。 ・話の中心を意識して考えながら、話したり聞いたりすることができるようにする。 ・自分の考えを式や図などを用いて、わかりやすく表現できるようにする。 ・協働的な学習を設定し、自他の良さを認め合い、深め合う経験を積めるようにする。	①漢字小テスト、スピーチの習慣化 ②読書環境の整備 ③デジタルドリルやプリントを活用した基礎・基本の定着。家庭学習での活用。 ④協働的な学習の設定
6 学 年	・文を書くことを意図的に指導してきたので、抵抗なく意欲的に取り組めるようになった。もっとよい文にしたいと考えて学習に取り組めるようにしたい。 ・文を書くときに、事実や根拠と自分の考えを分けて表現することに課題がある。 ・タブレット端末を活用しながら、主体的に学習に取り組む児童がたくさん見られた。 ・タブレット端末を用いた学習でくりかえし練習に取り組んだので、これまでの基本的な計算が定着している児童が多い。 ・自分の考えを多様な表現で友達に伝えることに課題がある。	・自分の文と比較することで、よりよい文にしたいという児童の意欲を高めていく。 ・自分の考えを述べる時に事実や根拠を用いた方がより説得力をもたせられることを理解できるよう指導を工夫する。 ・（式・図・表などを関連付けて説明することのよさを指導していく。） ・基礎基本の定着を図る。	①書いた文章を友達と読み合う機会を設定する。 ②事実や根拠を示す時の文末表現などを的確に用いる学習場面や課題を設定する。 ③協働学習支援ツールを活用して、多くの友達の表現に触れる機会を設定する。 ④デジタルドリルを家庭学習で活用する。